



諏訪湖通信86号

令和7年8月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



諏訪湖環境研究センター主催 「諏訪湖フィールド学習会」が開催されました

令和7年8月2日(土)に「諏訪湖フィールド学習会」が初めて開催されました。諏訪地域を中心に6組のご家族が参加されました。

学習会では、映像展示やセンター職員の解説により、諏訪湖の水質、マイクロプラスチック(MPs)、プランクトンについて学んだあと、実際に諏訪湖に入り、水を取ったり、プランクトンネットを使った採水、MPsの採取・観察をしました。また、「五感での諏訪湖の環境チェック」として、子どもたちそれぞれが、ごみがあるか・湖岸から聞こえる音・におい・諏訪湖の魚を食べてみたいかなどをチェックしました。初めて諏訪湖に入る子どもたちが多く、意外と水がきれいなこと、MPsが多くあることなど、様々な発見がありました。続いて、横河川にも入り、水の冷たさなど、諏訪湖との違いを実感していました。



諏訪湖の採水



MPsの採取・観察



プランクトンの観察

センターに戻ってからは、諏訪湖と横河川の水のCODと透視度を測定・比較したり、諏訪湖のプランクトンを顕微鏡を用いて観察したりしました。特に、子どもたちは目には見えないプランクトンの世界を夢中で観察していました。

普段、体験できない内容で子どもたちも終始、楽しく諏訪湖の水環境について学んでいました。こうした機会を通じ、諏訪湖の水環境保全に関心をもってほしいです。

夏休み特別開放「諏訪湖の生き物大集合」が開催されました(県水産試験場 諏訪支場)

令和7年7月24日(木)、諏訪湖の生き物を地域の皆さまにもっと知ってもらおうと魚や水生昆虫を展示しました。親子連れなど44名が来場され、にぎやかな1日となりました。

高精細な顕微鏡を使ったプランクトンの観察では、肉眼では見ることのできないミクロな世界に子どもだけでなく大人も釘付けになっている様子が印象的でした。

また、近くにある船着きで稚エビ(ヌカエビ、スジエビ)の放流体験を行い、併せてエビなどと地域の人々との食文化的なつながりについても紹介しました。これらの機会をとおり、諏訪湖をもっと身近に感じていただけたら嬉しいです。



解説する上島支場長



稚エビ放流体験



水槽展示

諏訪湖スマートインターチェンジが 開通しました

令和7年7月27日(日)15時に諏訪湖スマートインターチェンジ(SIC)が開通しました。当日行われた式典では、来賓祝辞のほか、テープカット、通り初め、地元の小学生や高校生によるアトラクションなどが行われました。

諏訪湖SICは中央自動車道 諏訪湖サービスエリアから乗り降りできるインターチェンジでETC車載器を搭載した車両(車長12m以下)が利用できます。

関係工事は四者で分担して行われ、NEXCO中日本がサービスエリアからETCゲート周辺を、上りアクセスを諏訪市が下りアクセスを岡谷市が、そして県が諏訪湖沿いの県道岡谷茅野線からアクセス部までの道路約1.4kmをそれぞれ新設しました。

今回の諏訪湖SIC開通は地域の観光振興や産業発展、さらには地域間の交流に大きく寄与することが期待されています。



開通前のテープカット



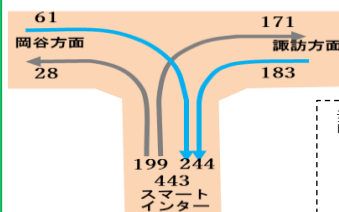
開通しました

諏訪湖スマートインター開通後の 交通量を調べてみました

令和7年7月27日(日)に供用開始したスマートインターの交通量を8月6日(水)の朝の7時~9時までの2時間を調べてみました。上り、下りランプの入口の出入り交通量を調べ、諏訪市及び岡谷市方面からの交通量及び1日当たりの交通量を換算しています。

(H27の岡谷茅野線の12時間交通量の7時~9時 0.201、昼夜率1.31を使用)

時間	上り(東京方面)		下り(松本方面)	
	出	入	出	入
7時~	79	33	17	102
8時~	92	16	11	81
計	171	61	28	183
合計	232		211	
12時間	1,154		1,050	
1日換算	昼夜率1.31		2,887台	



上りインター利用の出、下りインターの入りは諏訪方面から利用と推計すると

諏訪湖スマートインター
7時~9時 利用者 443台
岡谷市方面 89台 20%
諏訪市方面 354台 80%

岡谷茅野線交差点

平日の利用者は約2,900台、諏訪方面が80%と意外と多いのには驚きました。諏訪⇄松本方面の動きが多いためです。なお、休日の交通量を調べれば観光交通量の動きが判ります。

諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたい諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901